



全国で唯一の医科大学附属高校として 卒業生の9割以上が医学部に進学！

2020年に創立50周年を迎えた川崎医科大学附属高校。全国で唯一の医科大学附属高校であり、長い歴史の中で、卒業生1,689人中、1,522人が医学部に進学（進学率90・1%）している。どのような教育体制によって、この圧倒的な実績を実現しているのか。新井和夫校長に伺った。

入学直後から医学部受験に特化したカリキュラムを編成

川崎医科大学附属高校の最大の強みは、全員が医師を目指すという覚悟を固めて入学してくる点である。

「一般的な普通科高校は、2年次から文系、理系のコースを選択します。それに対して、本校では入学直後から医学部受験に特化したカリキュラムを組んでいます。英語、数学、理科の単位数を多めに設定し、理科は物理、化学、生物の3科目を必修にしています。学校設定科目の数学演習、理科演習では、複数の教員が担当し、個別指導に近い形で実践力を高めています。」（新井校長）



校長 新井 和夫 先生

平日も週2日は7時限授業になっており、週当たり授業時間数は36時間と、他の高校よりかなり多い。6時限

授業の日も、生徒の理解が十分でない部分を補完する補習が実施されている。1学年の定員35名の少人数体制のもとで、これだけ手厚い教育が展開されるのだから、飛躍的な学力伸長が期待できるわけである。

「全寮制であることも、生徒たちが人間的な成長を遂げる上で、メリツトが大きいと、新井校長は語る。『医師には、多彩な医療スタッフとチームを組んで協力する力、患者さんの立場を踏まえ丁寧に説明する力などが要求されます。寮生活の中で、他者とコミュニケーションを図り、良好な人間関係を築く経験は、とても有意義なものになります。また、医師には、生涯学び続ける姿勢も重要です。寮生活は、それに耐えられる主体的な学習習慣を身につける場でもあるのです。』

それを象徴するのが、夕食後、19時15分から22時30分まで約3時間、学習室の個別ブースで勉強する「夜

間一斉学習」。毎日、交替で教員を配置しているほか、夜間指導専門の外部講師もおり、昼間の授業で理解が不足している部分を質問して、その日のうちに解消できる。苦手教科・分野がある生徒を集めて、特別に指導も行われている。生徒たちは、ほどよい緊張感を持って、真剣に勉強に取り組んでいる。



正面が校舎棟。左側が体育館



川崎医科大学附属病院見学



メディカルスクール・アワー



現代医学教育博物館見学レポート

生徒に聞く！

コミュニケーション力や学習習慣が身につく寮生活

川崎医科大学附属高校を志望した理由を教えてください。

三木 医科大学の附属高校で、同じ志を持つ仲間と切磋琢磨できるところに魅力を感じました。そんな環境ならば、目標を見失わず、粘り強く勉強を続けられると考えたのです。

堀江 本校に通っていた2歳上の姉から、医学部を目指すのなら、絶対入学した方がいいと勧められました。1学年の定員が少ないので、同級生たちとすぐに打ち解けることができ、テスト前は分からないところを教え合っていました。全寮制のため、他学年の生徒とも、気さくに話ができるようになります。中学時代まで自分からコミュニケーションを図るのは苦手なタイプだったので、寮生活を通して、人間関係を築く力が身についた気がします。

三木 寮の「夜間一斉学習」では、先生方が待機されており、疑問点が生じたら、マンツーマンで丁寧に教えてもらえます。すぐに疑問を解決できる効果は絶大でした。先輩たち



三木 駿之介 さん (千葉県出身)

「大学の学びの一端に触れる」「ドクターロード」

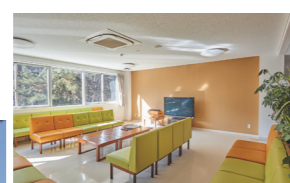
教育内容の魅力を紹介してください。

堀江 理科3科目（物理、化学、生物）が必修になっています。川崎医科大学の推薦入試で3科目が課されるからという理由だけでなく、医学部入学後も必要になる科目だからです。授業中に、先生方から「この部分は、医学部で履修する科目に関連するので、しっかり習得しよう」といったアドバイスを受けることも多く、将来を見据えた学びを進められ

聞かせてください。

堀江 私は、1年次はバスケットボール部、2・3年次は陸上部に入りま

学習環境はもちろん、生徒の日常を支える生活環境も充実している
下：女子寮外観（男女共に個室）
右上：男子寮談話室
右下：活気あるバドミントン部



三木 私は3年間、バドミントン部でした。体を動かすことでストレスを発散できますし、部活動の中で、コミュニケーション力や、チームワーク力も育まれたと思います。

堀江 そのほか、月1回行われる「メディカルスクール・アワー」では、大学の先生が、さまざまな診療科の内容や、医学部6年間の学びの流れなどを解説してくださいました。「医師へのインタビュー」では、私は附属病院麻酔科の女性医師に、1対1でインタビューしました。女性目線の話がとても新鮮で、自分の将来像をかなり明確にイメージできるようになりました。

堀江 そのほか、月1回行われる「メディカルスクール・アワー」では、大学の先生が、さまざまな診療科の内容や、医学部6年間の学びの流れなどを解説してくださいました。「医師へのインタビュー」では、私は附属病院麻酔科の女性医師に、1対1でインタビューしました。女性目線の話がとても新鮮で、自分の将来像をかなり明確にイメージできるようになりました。

